

水痘（水ぼうそう）ワクチン予防接種説明書

〈水痘（水ぼうそう）の予防〉

水痘（水ぼうそう）とは？

水痘（水ぼうそう）は水痘—帯状疱疹ウイルス（以下、VZVと言います）に初めて感染した時にみられる急性の感染症で、直接接触、飛沫あるいは空気感染によって広がる、最も感染力の強い感染症のひとつです。ひとたび感染すると衣装、嘉良の中に潜伏感染し、加齢や免疫抑制状態などで再活性化し、帯状疱疹を発症します。

水痘の潜伏期は通常2週間程度（10日～21日）です。典型的な須藤は、特徴的な発疹が主な症状でかゆみを伴い。発熱を伴う事もあります。発疹は斑点状の赤い丘しんから始まり、その後3～4日は水疱（水ぶくれ）となり、最後は痂皮（かさぶた）を残して治癒します。発疹はお腹や背中、顔などに多い傾向がありますが、頭部など髪の毛に覆われた部分にも現れるのが特徴です。

通常、1週間程度で自然に治癒しますが、まれに脳炎や肺炎、肝機能の異常を伴うことがあり、抗ウイルス薬（アクロシビルなど）が使用されることもあります。また、皮膚から最近が感染して化膿したりすることはまれではなく、敗血症などの重症の細菌感染症を合併する事もあります。ハイリスク患者（急性白血病などの恐れがある人）では特に重症となります。

なお、成人が水痘にかかると小児より重症になりやすい傾向にあります。

接種について

VZVを弱毒化して作った生ワクチンです。このワクチンを1回受けた者のうち、約20%は後に水痘にかかることがあります。もしかかって軽くすむとされていますが、確実に予防するためには2回の接種を行います。

水痘患者に接触した場合、3日以内にワクチンを接種すれば発症を予防できるとされ、院内感染の防止などにも使用されています。

また、MRワクチンと同時に接種する事も可能です。

対象者	標準的な接種期間	回数	間隔
生後 12 ヶ月から生後 36 ヶ月に当たるまでの間にある者	1回目 生後 12 ヶ月から生後 15 ヶ月に達するまで 2回目 1回目の注射終了後6ヵ月から 12 ヶ月までの間隔をおく。	2回	3ヵ月以上（標準的には6ヵ月から 12 ヶ月まで）

副反応について

健康的な場合、副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹がみられ、まれに局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）がみられます。ハイリスク患者でも一定の摂取基準を満たせば接種は可能ですが、接種後 14～30 日に発熱を伴った丘しん、水疱（水ぶくれ）が発現する事があります。

医療機関から副反応疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、0.00104%です。